

日本において社会的連帯経済運動はなぜ必要かについての理論的探究

共産主義や社会主義が一般的に失敗だったかのように言われる中、旧態依然とした左翼運動は、その必要性、喫緊性にもかかわらず、世間の賛同を得られぬまま、浮足立っているように見える。急速なグローバル化への対応として、日本では新自由主義的改革が矢継ぎ早に行われ、本来あったはずの共同体や社会性、地域文化は失われつつある。社会的連帯経済に特徴的な、地域独自経済や共生の思想は、外来の新しい考え方ではなく、いわゆる保守層のいうところの「旧き良き日本」にも存在した考え方である。しかるに、社会的連帯経済という名目を用いることで、実質的には社会主義的経済の浸透を図りながらも、保守層をも巻き込んだ文化や経済の「復権」として喧伝することもでき、新自由主義へのカウンター運動として、既存の左翼運動より広い枠組みで推進することができるのではないかと考える。

行政も、財政負担の軽減という可能性を示せば、社会的連帯経済を後押ししてくれる可能性もある。このことはオランダなどの例からもわかる。また、一般企業も他企業との競合の中で独自性を打ち出そうとするとき、海外ではエシカル企業としてブランド化を図ることで一定の成功を収めている企業もあり、そうした潮流は日本にもき始めているので、そうした私企業と暗に明に連携することもできる。

新自由主義のカウンター潮流を、グローバル化や企業・政府の思惑すら利用しながら社会に広めていける。社会的連帯経済運動は、そうした可能性を秘めているから私にとっては魅力的だ。

① 日本の社会的連帯経済の現在の課題と問題点は何か？

まだ喧伝が不十分。既存の組織がバラバラにやっていて、つながりが薄い。何もわかっていない人へのアプローチが下手である。

③ それを克服するために何をどうなすべきか？

コアになる組織はもっとあらゆるメディア・SNSを通じ、そしてコネクションをフルに生かして喧伝すべき。

④ その過程で「ソウル宣言の会」はどのような役割を果たせるのか？

とにかく社会的連帯経済の告知。その素晴らしさ、可能性を喧伝すること
既存の組織のネットワーク化。そのためのシンポジウムや代表会議の場の提供、呼びかけ
インターネット上でのプラットフォームの作成

行政やエシカル企業への働きかけと連携
韓国やその他海外とのコネクション強化。海外情報の発信。

⑤その他

[所感] (京都大学社会科学研究会ピース・ナビ会誌への寄稿文より抜粋)

この大会に参加し、非常に勇気づけられる一方、課題も感じました。それは、行政・政府との距離の取り方です。例えばソウル市では現市長の朴元淳(パク・ウォンスン)主導のもと、自治体として率先して社会的企業支援の仕組みを整備しました。しかし、もし市長が代わって、方針が変わったらどうなるのでしょうか。実際、連帯経済を推進していた政権が倒れたブラジルでは、さまざまな連帯経済のグループが補助金打ち切りや枠組みの見直しなどで深刻なダメージを受けているそうです。難民受け入れにあれほど積極的だったドイツもまた、世論の反発から政府が方針を転換し、補助金が打ち切られているそうです。

また、社会的連帯経済に頼って政府の財政支出をへらそうという狙いが、政府や地方自治体もあり、社会的連帯企業は市場原理の中で厳しい経営を迫られることとなります。依存しすぎてもいけません、補助金や法的整備、税制度などの面で政府がバックアップするように強く働きかけ続けることが必要だと感じました。

また、資本主義の様々な矛盾を糊塗することが、結果的に搾取構造の延命につながっているのではないかという疑問もあります。つまり、政府や資本主義社会への批判的視点がなければ、社会にとって良いことをしたいという思いを利用され、振り回されてしまうと思いました。階級的警戒心は必要だということだとも思います。

社会包摂を担う企業は、場所によりますが国や市から補助金が出るケースが多く、多くの企業はそのシステムを利用しています。しかし中には、デザイン性や品質を高めて売上げを伸ばし、経済的に自立している企業もあります。経済的に自立することのメリットは、政府の干渉を受けにくい、ということです。政権交代や世論の変化で、補助金が削減されても活動が続くためには、経済的自立が欠かせません。事業内容についても、補助金を受けるには様々な制約があり、それが構成員自治の妨げになることもあります。

一方で、政府は障がい者や受け入れた移民、失業などすべての社会構成員に対し、責任があります。税金からの再分配は政府の重要な役割ですから、補助金を出すのは当然のことです。重要なのは、そこに依存しきってしまわないこと、現場の声をきちんと政府に届けることです。そして税の優遇や制度の整備など、きちんと責任を果たしてもらわなければなりません。

※「社会包摂」という言葉に、私は違和感を覚えています。というのは、社会になじまない人をどう社会に統合していくか、つまり、働いて税金を納め、周囲と摩擦を起こさない「良き市民」をいかにつくるか、という視点で語られることが多いからです。行政には必ずそうした思惑があります。それをどう利用するかに尽きると思います。現場での取り組みはどれも真摯で素晴らしいと思いました。

